

事務局報告

第49回(2010年度第4回)幹事会議事要録

日時:2010年8月1日(日)13:30~17:00

場所:中央大学理工学部教養生物学実験室2502教室

出席者:南木会長,西田事務局長,那須庶務幹事,工藤会計幹事,佐々木広報・渉外幹事,能城編集委員長,近藤行事委員長

報告事項

1. 会員動向:2010年7月30日現在の会員数が報告された(名誉会員3名,賛助会員1社,一般会員361名,学生会員33名,団体会員8団体)。
2. 会費長期滞納者への対応:2007年度より4年分会費を滞納している会員が6名いることが報告され,次号発行時に合わせて最終督促状を送付することにした。
3. 植生史研究の編集状況:第18巻第1号を6月20日付けで刊行したことが報告された。第18巻第2号を9月頃に刊行できるように準備する。
4. 第31回談話会報告:第31回談話会「植生史解明のための室内実験法4-遺跡出土木材の切片作製と同定-」を2010年7月17,18日に中央大学で開催した。参加者20名(会員8名,非会員12名)で定員に達し,好評だったことが報告された。
5. 植生史研究のPDF公開:植生史研究のバックナンバーをPDF化したことが報告された。過去2年前(第15巻第2号)までのPDFを学会ホームページで順次公開していくことにした。
6. メーリングリスト不達アドレス:会員の異動などに伴い,メーリングリスト不達アドレスが増加していることが報告された。メーリングリスト登録用のメールアドレスの変更をニュースレターで呼びかけることにした。

審議事項

1. 第25回大会について:第25回大会の準備状況が報告され,次号のニュースレター(メーリングリスト)で大会第2報を発送することにした。
2. 第26回大会について:第26回大会は,青森県立郷土館の伊藤由美子氏,青森県埋蔵文化財調査センターの杉野森淳子氏,弘前大学の上條信彦氏らに実行委員をお引き受け頂いたことが報告された。会場は弘前大学。
3. 第32回談話会について:第32回談話会を検討し,「植生史解明のための室内実験法5-初心者のための大型植物遺体分析法-」を来年7月に中央大学で開催することにした。
4. 奨励賞について:奨励賞の応募が2件あったことが報告された。
5. ニュースレターについて:次号8月25日配信予定の

ニュースレター掲載内容を検討した。

6. 賛助会員の規程・内規の改訂案について:学会費値上げに伴い,賛助会員の会費と特典内容を改めて検討することにした。
7. 名簿の発行について:個人情報保護の観点から名簿発行の必要性を検討し,次回評議員会と総会で審議することにした。
8. バックナンバーについて:バックナンバー販売の業者委託とPDF公開に伴い,セット販売を終了することにした。
9. 学会事務委託について:2010年10月1日より,学会事務を大学生協学会支援センターに委託することが決定した。これに伴い,事務局住所を以下の場所に変更する。
〒166-8532
東京都杉並区和田3-30-22
大学生協学会支援センター内 日本植生史学会事務局
Tel 03-5307-1175 Fax 03-5307-1196
10. 次回幹事会:次回幹事会は,11月27日(土)9:00~10:30に名古屋大学にて開催する。

第50回(2011年度第1回)幹事会議事要録

日時:2010年11月26日(金)15:30~19:00

2010年11月27日(土)9:00~10:30

場所:名古屋大学年代測定総合研究センター3階講義室
名古屋大学野依記念学術交流館会議室

出席者:西田事務局長,那須庶務幹事,工藤会計幹事,佐々木広報・渉外幹事,能城編集委員長,近藤行事委員長,藤井行事副委員長

報告事項

1. 会員動向:2010年11月24日現在の会員数が報告された(名誉会員3名,賛助会員1社,一般会員350名,学生会員35名,団体会員8団体)。
2. 会費長期滞納者への対応:2007年度より4年分会費を滞納している会員3名が報告され,2010年12月15日までに会費の納入がない場合には除名する方向で評議員会において審議し,総会で報告することにした。
3. 植生史研究の編集状況:現在受理済みの論文が5本(原著3本,短報1本,解説1本)査読中の論文が6本あることが報告された。論文は比較的集まってきたが,レベルが低下しているため,査読に時間がかかっていることが報告された。
4. 第7回奨励賞審査結果:第7回奨励賞の受賞者に,総合研究大学院大学的那須浩郎氏と東北大学大学院生命科学研究所の箱崎真隆氏の2名が選ばれたことが報告

された。

5. 植生史研究の PDF 公開状況：年内に第 15 巻 2 号までアップロードすることが報告された。
6. 学術著作権協会からの入金：学術著作権協会より複写使用料分配金 13,484 円が学会口座に振り込まれることが報告された。
7. 国立情報学研究所 HP サービスの停止：事業仕分けに伴い、国立情報学研究所の HP サービスが平成 24 年 3 月に終了するとの連絡があった。これを受けて、学会 HP をメーリングリストで利用しているサーバーに移行することにした。

審議事項

1. 第 26 回大会について：第 26 回大会を 2011 年 11 月 5 日（土）・6 日（日）、弘前大学において開催すべく準備することにした。
2. 第 32 回談話会について：日程調整と今後のスケジュール確認を行った。
3. 論文賞について：選考のためのスケジュール確認を行った。
4. 学会賞について：公募・審査のためのスケジュール確認を行った。総会で応募要項と応募用紙を配布して公示し、推薦を求めることにした。
5. 第 8 期会長・評議員選挙について：選挙管理委員長の選定と実施スケジュールの確認を行った。今回は経費削減のため、会長・評議員選挙を同時に行うことにした。選挙管理委員長は松本みどり会員にお願いすることにした。
6. IPC / IOPC2012 について：協力委員会の委員の選定および具体的な活動案を検討した。能城修一会員に委員長を、小畑弘己会員に副委員長を委嘱することにした。
7. 次号ニュースレターについて：記事の内容と配信時期について検討した。
8. 賛助会員の規程・内規の改訂案について：賛助会員の特典内容と会費について再検討した。
9. 名簿の発行について：会員名簿の簡略化と配布の効率化について検討した。
10. メーリングリスト配信回数：メーリングリストの配信時期と回数について検討し、シンポジウムや他学会の案内などは、月に 1 回まとめて配信することにした。
11. 自然史学会連合について：自然史学会連合の代表幹事を藤井伸二会員が務めることになった。

2011 年度評議員会議事要録

日時：2010 年 11 月 27 日（土）11:00～12:30
 場所：名古屋大学野依記念学術交流館 会議室
 出席者：植村 和彦，鈴木 三男，松下まり子，百原 新

評議員

西田事務局長，那須庶務幹事，工藤会計幹事，佐々木広報・渉外幹事，能城編集委員長，近藤行事委員長，中村第 25 回大会実行委員長

1. 2010 年度の事業報告および会計報告・会計監査報告（総会資料）を承認した。
 - 1) 学会事務業務を大学生協学会支援センターに委託した件について、仮に委託先が倒産した場合に、学会の資産が保護されるかどうかの質問があったが、学会資産は学会で管理し、年度ごとに委託料を支払う体制を取っているため、その心配はないことが説明された。
 - 2) 植生史研究の PDF 公開に関連して、論文 PDF を著者へ配布するかどうかの質問があり、今年度中に検討することにした。
2. 2011 年度事業計画の幹事会案を審議し、一部修正のうえ承認した。主な案件は以下の通りである。
 - 1) 植生史研究の編集・刊行が遅れている件について審議した。編集・刊行が遅れている原因についての意見が求められ、論文投稿数は増加しつつあるが、論文の質が低下しており、査読に時間がかかっていることが説明された。今後の刊行計画について議論し、今年度中に遅れを取り戻すことにした。
 - 2) 会員名簿の簡略化と配布の効率化について審議した。個人情報保護および経費削減の観点から、2年に1度の会長・評議員選挙に合わせて、会員の氏名と所属のみを記載した簡易名簿を配布する案が出されたが、通常どおりに会員名簿を発行することにした。
 - 3) IPC/IOPC2012 協力委員会の設置について審議した。日本植生史学会からのセッションおよびエクスカージョン等の提案を行うため、幹事会から能城修一委員長と小畑弘己副委員長が推薦され、承認された。
 - 4) 賛助会員の規程・内規の改訂案について審議した。幹事会から賛助会員の会費を改定し、特典を改訂する案が提案され、今年度中に賛助会員の意見を伺うことにした。

2011 年度総会議事要録

日時：2010 年 11 月 28 日（日）11:30～12:30
 場所：名古屋大学野依記念学術交流館
 議長：守田益宗

1. 報告事項

1. 2010 年度事業報告

1-1. 庶務

- 1) 会員動向（2010 年 9 月 30 日現在）：名誉会員 3 名，賛助会員 1 社，一般会員 351 名，学生会員 36 名，団体

会員 8 団体 (前年度比:名誉会員 ± 0 名,賛助会員 ± 0 社,一般会員 - 12 名,学生会員 + 4 名,団体会員 ± 0 団体)。除名会員 2 名。

2) 2010 年度評議員会を 2009 年 11 月 6 日,熊本大学埋蔵文化財調査室において,総会を 11 月 8 日,熊本大学百周年記念館において開催した。

3) 学会事務局を(株)大学生協事業センター内大学生協学会支援センターに委託するための準備を行い,2010 年 10 月 1 日より委託を開始することにした。

4) 幹事会を 2009 年 11 月 6 日,熊本大学埋蔵文化財調査室において,2009 年 12 月 10 日,2010 年 4 月 17 日,2010 年 8 月 1 日,中央大学理工学部において開催した。

1-2. 広報・渉外

1) ニュースレター 20 号・21 号・22 号を編集・刊行した。

2) ホームページの管理と更新を行った。

3) 企業広告の募集を行った。

4) 会誌「植生史研究」の PDF 化を行い,第 15 巻 2 号までホームページで公開することにした。

1-3. 編集

会誌「植生史研究」第 18 巻第 1 号を刊行した。

1-4. 行事

1) 第 24 回大会を 2009 年 11 月 7・8 日,熊本大学百周年記念館において開催した。

大会実行委員長:甲元眞之。大会実行委員:小畑弘己・宮縁育夫・仙波靖子・佐々木由香・佐々木尚子。

参加者:109 人。

2) 第 30 回談話会を 2009 年 11 月 8・9 日,熊本県阿蘇市において開催した。

テーマ:「阿蘇の草原の歴史を探る」(大会巡検)。

案内者:宮縁育夫・佐々木尚子・小畑弘己。参加者:21 人。

3) 第 31 回談話会を 2010 年 7 月 17・18 日,中央大学において開催した。

テーマ:「植生史解明のための室内実験法 4 - 初心者のための遺跡出土木材の切片作製と同定 -」。

講師:能城修一。講師補助:佐々木由香・小林克也。世話人:西田治文・近藤 敏。参加者:20 人。

4) 第 25 回大会を 2010 年 11 月 27・28 日,名古屋大学において開催すべく準備した。

2. 2010 年度決算報告(次々頁)・会計監査報告

2010 年度の決算が報告され,江口誠一会計監査より適正に処理されていたことが報告された。

3. 第 7 回奨励賞

日本植生史学会表彰規程(2002 年 11 月 17 日制定,2009 年 11 月 8 日改正)に則って,奨励賞審査委員会(高

原光委員長,南木睦彦,西田治文,植村和彦,鈴木三男,松下まり子,百原 新,能城修一各委員)を設置し,審査を行った。その結果,総合研究大学院大学学融合推進センター特別研究員 那須浩郎氏,東北大学大学院生命科学研究所 箱崎真隆氏の 2 名を,第 7 回日本植生史学会奨励賞受賞者に決定した。

第 7 回日本植生史学会奨励賞受賞理由(審査委員長 高原 光)

総合研究大学院大学学融合推進センター特別研究員 那須浩郎氏

那須浩郎氏は,これまで大型植物遺体の分析を用いて,テーマの異なるいくつかの研究を実施してきた。学部学生から修士課程では,最終水期の埋没林から当時の針葉樹林の空間構造と立地環境の復元研究に取り組み,従来注目されてこなかった蘚苔類に着目し,その生態から当時の針葉樹林の立地環境を復元した。博士過程ではまず,北海道東部沿岸の地震性海水準変動を,大型植物遺体により復元研究した。さらに,遺跡を対象として,稲作の起源地域である中国長江流域の城頭山遺跡で,アワの栽培/野生の同定基準を確立し,城頭山遺跡では稲作だけでなく雑穀農耕も併せ持った多角的な農耕が展開されていたことを明らかにした。近年は,遺跡に関する研究を重視し,日本国内だけでなく,西アジアや中南米の遺跡にもフィールドを広げて,農耕や文明と環境変化との相互関係の研究を開始している。今後さらに,大型植物遺体分析から植生史学の発展に貢献できる若手研究者であることを認め,平成 22 年度日本植生史学会奨励賞を授与する。

東北大学大学院生命科学研究所 箱崎真隆氏

箱崎真隆氏は山口県宇生賀盆地のスギ埋没林の年輪解析によって,低湿地に 1000 年間以上スギ林が成立したことを明らかにし,また,福島県猪苗代湖鬼沼のサワラ埋没林では,木材化石と花粉化石を用いて時空間的な植生変遷の復元を行なった。現在,それらの研究を基礎とし,青森県東通村猿ヶ森のヒバ埋没林において,年輪解析により埋没林内における樹木の更新と埋没林形成過程の復元に取り組んでいる。さらに,北東北の縄文時代から近世までの遺跡出土ヒバ材の年輪解析にも取り組み,既に複数の遺跡と猿ヶ森の埋没ヒバ材とのクロスデーティングにも成功している。この研究から得られるヒバの樹木年輪標準暦は今後の植生史学および古気候学,さらには考古学,歴史学,文化財科学等の諸分野にとって極めて有効なデータになると大いに期待される。また,学部卒業時以来,学会大会等での発表を欠かさず行っており,日本生態学会 2008 年度大会(2009 年 3 月)においては「第 56 回日本生態学会大

会ポスター賞優秀賞(遷移・更新分野)」を受賞している。以上のとおり、箱崎真隆氏の研究内容と研究姿勢は、植生史学の将来の発展に大いに貢献することを認め、平成22年度日本植生史学会奨励賞を授与する。

4. 会員の除名

会費の長期滞納により3名の会員について、2010年12月15日まで納入がない場合は除名することとした。

5. 国際メタセコイアシンポジウム

第3回国際メタセコイアシンポジウムを、2010年8月3日～8日、大阪市立自然史博物館で開催した。

実行委員長：鈴木三男。実行委員：大山幹成・塚腰 実・高橋 晃・植村和彦・西田治文・大久保 敦・南木睦彦・百原 新・斎藤清明・能城修一。参加者：10カ国、60人。

6. 自然史学会連合加盟報告

2010年度総会にて自然史学会連合への加盟が承認され、加盟したことが報告された。代表幹事は藤井伸二会員が務めることになった。今年度の連合の主な活動について、藤井代表幹事より以下のような報告があった。2009年11月7～8日に平成21年度講演会「未来に残したい日本海域の自然史遺産」を石川県立自然史資料館にて開催、2009年11月16日に「地方分権改革推進委員会第3次勧告の博物館法見直しに対する反対声明」を関係大臣に送付、2010年11月28日に平成22年度講演会「東北の豊かな自然」を開催した。

II. 審議事項

1. 2011年度事業計画

1-1. 庶務

- 1) 2011年度評議員会を2010年11月27日(土)、総会を2010年11月28日(日)、名古屋大学において開催する。
- 2) 第8期会長選挙および評議員選挙を実施する。選挙管理委員長：松本みどり会員。
- 3) 第1回論文賞の選定を行う。
- 4) 第3回学会賞の公募および選定を行う。
- 5) 幹事会を4回程度開催する。
- 6) 会員名簿を刊行する。

1-2. 広報・渉外

- 1) メーリングリストによる情報配信を、月1回程度行う。
- 2) ニュースレターを編集・刊行し、配信はメーリングリストにより行う。
- 3) ホームページの管理と更新を行う。

- 4) 会誌「植生史研究」に掲載する企業広告を募集する。
- 5) 会誌「植生史研究」のPDF化とホームページでの公開を行う。

1-3. 編集

- 1) 会誌「植生史研究」を編集し、第18巻第2号を2011年1月、第19巻第1号・第2号(合併号)を2011年4月、第20巻第1号を2011年6月、第2号を2011年9月に刊行する予定である。

1-4. 行事

- 1) 第25回大会を2010年11月27日(土)・28日(日)、名古屋大学において開催する。
大会実行委員長：中村俊夫。大会実行委員：山本直人・南 雅代・森 勇一・工藤雄一郎・西本 寛・奥野絵美・小田寛貴・宮田佳樹・大森貴之・近藤 敏・藤井理恵。
- 2) 第32回談話会を2011年7月、中央大学において開催する予定である。
- 3) 第26回大会を2011年11月5日(土)・6日(日)、弘前大学において開催すべく準備する。
大会実行委員長：関根達人。大会実行委員：伊藤由美子・上條信彦・杉野森淳子・根岸 洋・近藤 敏・能城修一・佐々木由香。

2. IPC / IOPC2012年度日本開催に向けた協力委員会の設置

第13回国際花粉学会議(IPC-XIII)・第9回国際古植物学会議(IOPC-IX)の合同会議を2012年8月23日～30日に日本(東京、中央大学)で開催するにあたり、日本植生史学会は後援学会としてこれをサポートする。このための委員会(IPC/IOPC2012協力委員会)を設置し、能城修一会員に委員長を、小畑弘己会員に副委員長を委嘱する。委員会は、日本植生史学会からのセッションおよびエクスカーション等の提案を行う予定である。

3. 2011年度予算案(次頁)

賛成多数で承認された。

事務局移転のおしらせ

2010年10月1日より、学会事務を大学生協学会支援センターに委託しました。これに伴い、事務局を以下の住所に移転し、各種受付先を変更します。入会・異動・退会の申込み、バックナンバーの購入、メーリングリストアドレスの登録・変更、メーリングリストへの投稿記事は、以下の新事務局にご連絡下さい。

〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22

2010年度決算報告(2009年10月1日～2010年9月30日)

取 入	2010年度予算	2010年度決算	
会費	2,271,000	2,262,800	
団体・賛助会員会費	79,000	42,000	一部は18巻2号に合わせて請求予定
会誌売上	100,000	87,350	
特別第2号売上	50,000	12,250	
利息	1,000	410	
大会準備貸付金返金	200,000	100,000	
寄付金		144,700	熊本大会余剰金
前年度繰越金	1,649,026	1,649,026	
収入合計	4,350,026	4,298,536	
支 出			
会誌印刷・郵送費			
会誌印刷費 18(1)	380,000	341,250	2010年6月刊行
会誌印刷費 18(2)	380,000	0	未刊行
会誌印刷費 19(1)	380,000	0	未刊行
会誌印刷費 19(2)	380,000	0	未刊行
会誌郵送費 17(2)	38,000	37,150	2009年10月発送
会誌郵送費 18(1)	38,000	37,670	2010年6月発送
会誌郵送費 18(2)	38,000	0	
会誌郵送費 19(1)	38,000	0	
会誌郵送費 19(2)	38,000	0	
大会			
2010年熊本大会準備金	100,000	100,000	2009年10月21日振込
2010年熊本大会準備貸付金	100,000	100,000	2009年10月21日振込
2011年名古屋大会準備金	100,000	100,000	2010年10月振込
2011年名古屋大会準備貸付金	100,000	100,000	2010年10月振込
事務経費			
バックナンバー郵送費	15,000	0	※郵送費に一括
ニュース紙等郵送費	76,000	30,540	会費改定通知1回, 他はメーリングリスト
郵送費	43,000	22,540	
郵送補助(人件費)	120,000	63,000	会誌発送2回, 会費改定通知発行1回
封筒印刷費	80,000	0	
一般事務経費	60,000	46,781	事務局移転費含む
植生史研究PDF化(人件費)	0	46,000	17巻2号までPDF化完了
幹事会出席旅費	305,000	125,560	会計監査旅費, 幹事会旅費(東京3回)
支出合計	2,809,000	1,150,491	
次年度繰越金(予備費)	1,541,026	3,148,045	

2011年度予算案(2010年10月1日～2011年9月30日)

取 入			
会費	2,214,000		一般会員6,000円×351人, 学生会員3,000円×36人として計算
団体・賛助会員会費	79,000		団体会員8,000円×8団体, 賛助会員15,000円×1社として計算
会誌売上	50,000		
特別第2号売上	10,000		
利息	1,000		
大会準備貸付金返金	100,000		
前年度繰越金	3,148,045		
収入合計	5,602,045		
支 出			
学会事務委託経費			
データ引継ぎ費用	52,500		初年度のみ
基本業務委託	453,600		会員管理・会誌発送・メーリングリスト配信管理等
メール一斉配信追加分	31,500		6回目以降1回3,150円
会長・評議員選挙代行	65,000		
会員名簿作成代行	92,400		
会誌印刷・郵送費			
会誌印刷費	1,900,000		18巻2号～20巻2号 各380,000円
会誌郵送費	190,000		18巻2号～20巻2号 各38,000円
大会			
2012年青森大会準備金	100,000		
2012年青森大会準備貸付金	100,000		
選挙関連			
会長・評議員選挙郵送費	40,000		
選挙用封筒印刷費	30,000		
選挙立会人旅費	10,000		
会員名簿関連			
名簿作成用返信はがき代	40,000		
名簿印刷費	100,000		
事務経費			
郵送費	30,000		バックナンバー郵送費, 会誌査読郵送費等
封筒印刷費	80,000		事務委託に伴い新たに印刷費
一般事務経費	70,000		HPサーバー, 文房具, 学会副賞代含む
植生史研究PDF化関連	40,000		HPアップロード作業, 18巻・19巻PDF化を予定
奨励賞副賞	60,000		受賞者2名分
幹事会出席旅費	150,000		会計監査旅費, 幹事会旅費(東京3回)
自然史学会連合分担金	40,000		2年分(20,000円/年)
IPC/IOPC2012協力委員会経費	100,000		委員会旅費
支出合計	3,775,000		
次年度繰越金(予備費)	1,827,045		

大学生協学会支援センター内 日本植生史学会事務局
Tel : 03-5307-1175 Fax : 03-5307-1196 Mail :
hisbot@univcoop.or.jp

その他の連絡先は、以下の通りです。
連絡・問合せ、転載許可申請
庶務幹事 那須浩郎 hbmain@hisbot.jp
雑誌投稿、企業広告原稿の送付先
編集委員長 能城修一 hbjournal@hisbot.jp
ホームページ問合せ、企業広告問合せ
広報・渉外幹事 佐々木由香 hbnews@hisbot.jp

第3回日本植生史学会「学会賞」公募のおしらせ

日本植生史学会表彰規程に則り、第3回学会賞の候補者を募集いたします。学会賞は、出版物を中心に植生史学に貢献した個人または団体を対象に、4年に1回審査委員会が公募による候補者より決定します。会員の皆さまには、多数の推薦をお寄せいただくよう、よろしくお願ひいたします。

1) 応募方法

所定の応募用紙に必要な事項を記入のうえ、学会事務局まで電子メールか郵送で送付してください。応募締め切りは、2011年4月30日(必着)とします。応募用紙は、学会ホームページからダウンロードできます。応募用紙に記載された個人情報、学会賞選考以外の目的では使用しません。審査終了後は速やかに破棄し、応募者への返却は行いません。

送付先メールアドレス hbmain@hisbot.jp
送付先住所 〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)
総合研究大学院大学学融合推進センター 日本植生史学会庶務幹事 那須浩郎

2) 審査方法

学会賞審査委員会により、出版物に対する業績を基本に、教育・普及活動や学会への貢献も含めた業績を総合的に判断します。審査委員会は、受賞者を2011年7月末日までに決定し、総会にて報告します。なお受賞者には、年度大会で受賞記念講演を行っていただきます。受賞者には、表彰状および記念品が授与されます。

会員動向(2010年6月～2010年11月)

新入会員

友野 雄己(学生) 東京大学大学院新領域創成科学研究科
松本 優衣(学生) 東京大学大学院新領域創成科学研究科
住ノ江 淳(学生) 京都大学大学院農学研究科
奥中 亮太(学生) 大阪市立大学大学院理学研究科

退会会員

井上 洋一, 大泰司 統, 岸本 剛

第7期日本植生史学会役員

(任期: 2009年10月1日～2012年度大会)

会 長: 南木睦彦
評議員: 高原 光, 百原 新, 鈴木三男, 植村和彦, 松下まり子
会計監査: 江口 誠一
幹 事: 西田治文(事務局長), 那須浩郎(庶務), 工藤雄一郎(会計), 佐々木由香(広報・渉外)
編集委員会: 能城修一(委員長), 大井信夫(副委員長)
行事委員会: 近藤 敏(委員長), 藤井理恵(副委員長)

査読者への謝辞

植生史研究第18巻に投稿された論文等は下記の方々に査読していただきました。記して御礼申し上げます。

江口誠一	清永丈太	佐々木由香	杉山真二	宮田佳樹	米林 伸
上條信彦	國木田 大	鈴木三男	松田智明	村上由美子	